

IV-494

駅前景観の評価に関する研究

芝浦工業大学 正 石 井 忠二郎 今市役所 八木沢 繁
 東京大学 正 齊 藤 潮 盤田市役所 太 田 徹

1. はじめに

駅前広場の景観は、そのまちの第一印象を形成し、都市景観を構成する上で重要な位置づけとなる。

そこで本研究は、駅前広場に面する建築物の色彩、形、大きさ、位置、バランス、雰囲気ならびに駅前広場の各施設などについて、実際の利用者にアンケート調査を実施、各調査項目の関連性などから、現在の駅前景観を分析・評価することを目的とする。

2. 研究方法

(1) 対象駅および調査地点は、都心の代表的駅として新橋(西口)、新宿(東口)、東京(a;八重州南口、b;八重州北口の2地点)の3駅4地点を選定した。

(2) アンケート調査の対象者は、通行人や待ち合わせをする人など実際の利用者に行った。尚、アンケート調査数は各地点共100人、計400人である。

(3) アンケート調査は次の方法で実施した。

質問1. 良い(好きな)ビルについて

① 先ず、各駅前広場に面するビルの中から、第一印象で目についた「良い(好きな)ビル」を1,2位まであげてもらう。②次に、その1,2位のビルについて各々「どんな点が良いか」を色、形、大きさ、位置、その他の中から複数回答であげてもらう。③さらにその内、色と形については5段階評価をしてもらう。

質問2. 悪い(嫌いな)ビルについて

①「悪い(嫌いな)ビル」1つをあげてもらい。以下、質問1と同様に、②「どんな点が悪い」か、③その内の色と形について5段階評価をしてもらう。

その他、駅前ビル全体のバランス、雰囲気、ならびに駅前広場全体のイメージ、印象に残る施設などを設問した。

以上のアンケート調査のデータ結果から、各駅の良いビル、悪いビルの順位を決定し、さらに各駅および各駅間の各建築物のD/Hの相関分析などによって、駅前広場景観の評価を行う。

3. 各駅前広場ビルの評価分析

(1) 新橋駅西口

調査地点は西口改札口前、ほぼ広場中央端部で実施した。

質問1,2では、表1に示すように「良いビル」と「悪いビル」の評価は、ほぼ相関性が見られた。しかし、Aビルは「良い」が2位(25.0%)、「悪い」が3位(12.0%)であり、良いビルの評価が高い一方で悪いとする評価も高い。これは悪い理由の色、形のランク付けの質問で、共に悪い回答が多く、また、『その他』の回答の中で“一般的”、“景観が悪い”などの意見があり、Aビルはデザインが込んでいるために、若干、好みの差が出たものと考ええる。Lビルは最も悪いビル(32.0%)という評価であったが、これはビル表側全面が派手な看板・広告で占められ、色、形とも悪いという回答が顕著であり、評価を低くしている。

質問1-②の良いビルの「良い点」についての回答は、ビル全体では形(28.0%)、色(47.4%)が多い。各ビルごとの色のランク付けの回答では、Cビルが最も高い評価を示した。これはCビルが落ちついた明るい茶色のためと考えられる。

(2) 新宿駅東口

調査地点は東口駅前広場階段出口右側、ほぼ広場中央端部を選定した。

表2に見られるように「良いビル」と「悪いビル」との評価が2分された。最も評価の高いAビルは駅前広場中央正面に位置し、壁面に超大型テレビが映し出すシンボルの存在のビルである。Dビルは壁全面が看板であり、「悪い点」の質問では色の回答(22.5%)が多かった。

(3) 東京駅

東京駅八重州口広場では、2地点(a;八重州南口、b;八重州北口)にて実施した。

表3に見るように「良いビル」の上位3位(F, C, Gの順位)まではa, b視点とも同じような評価を示した。しかし、Gビルのa視点からの評価は

表1 良いビル・悪いビルの順位(新橋)

順位	ビル名	%	D/H	順位	ビル名	%
1	C	26.0	2.347	1	L	32.0
2	A	25.0	0.909	2	D	17.0
3	I	11.0	2.738	3	A	12.0
4	J	8.0	1.905	4	G	9.0
5	F	5.0	7.500	5	B	6.0
6	L	4.5	1.571	6	F	5.0
7	G	1.0	7.500	7	E	3.0
8	B	0.5	3.095	8	C	2.0
8	D	0.5	2.248	9	H	1.0
8	H	0.5	2.619	9	I	1.0
8	K	0.5	3.214	9	J	1.0
12	E	0.0	7.500	9	K	1.0

表2 良いビル・悪いビルの順位(新宿)

順位	ビル名	%	D/H	順位	ビル名	%
1	A	43.5	1.135	1	D	58.0
2	C	31.0	2.381	2	E	15.0
3	B	9.0	1.905	3	B	6.0
4	E	8.0	1.688	4	C	5.0
5	D	1.5	4.643	5	A	0.0

表3 良いビル・悪いビルの順位(東京a)

順位	ビル名	%	D/H	順位	ビル名	%
1	F	28.5	2.083	1	B	17.0
2	C	20.0	2.143	2	I	14.0
3	G	15.5	2.381	3	G	13.0
4	H	8.0	3.247	4	D	7.0
5	J	5.0	5.794	5	H	6.0
6	D	3.0	4.306	6	A	3.0
7	K	2.5	3.274	7	C	2.0
8	E	2.0	2.679	7	K	2.0
9	I	1.0	4.762	9	E	0.0
10	A	0.0	6.250	9	F	0.0
10	B	0.0	3.095	9	J	0.0

表4 良いビル・悪いビルの順位(東京b)

順位	ビル名	%	D/H	順位	ビル名	%
1	F	33.5	3.869	1	D	22.0
2	C	28.5	1.563	2	B	13.0
3	G	17.0	6.349	3	K	11.0
4	B	4.0	1.190	4	G	8.0
5	J	1.5	9.683	5	C	4.0
6	A	0.5	0.446	6	A	2.0
6	D	0.5	3.214	6	I	2.0
6	K	0.5	7.143	8	H	1.0
9	E	0.0	2.009	9	E	0.0
9	H	0.0	7.143	9	F	0.0
9	I	0.0	9.524	9	J	0.0

表5 ビル全体のバランス

駅名	良い	普通	悪い
新橋	18.0%	21.0%	61.0%
新宿	15.0	47.0	38.0
東京a	35.0	48.0	17.0
東京b	36.0	42.0	22.0

表6 バランス、雰囲気、イメージの評価

	バランス	雰囲気	イメージ
新橋	悪い	圧迫感がある	良い
新宿	悪い	圧迫感がある	良い
東京(a)	良い	開放感がある	悪い
東京(b)	良い	やや圧迫感がある	悪い

「良い」(15.5%)、「悪い」(13.3%)共に3位である。また、その「悪い点」は大きさ(11.3%)、形(8.5%)、色(5.6%)の順位であり、特に「悪いビル」の大きさについての回答があったのはGビルだけであった。一方、b視点からのGビルの評価は、「良い」が3位(17.0%)、「悪い」が4位(8.0%)で、その「悪い点」は大きさ(6.7%)、形(4.1%)、色(5.4%)である。Gビルの評価は大きさが大きく影響している。a、b視点からのGビルのD/Hは、2.381と6.349であり、W/Dは斜視野で各0.880、0.200である。このため、b視点に比して、a視点からは特に横長

ビルの知覚が強く生じるために、大きさにおいて悪い評価を得たものと考えられる。

4. 各駅前ビル全体のバランスの相関分析

表4に示すように、駅前ビル全体のバランスは東京a、b地点においては他駅に比して共に(35.5%、36.0%)良い結果を示した。新橋駅は最も悪い(61.0%)。

ここで「各駅ビルの高低差」と「バランスが悪い回答率」(表5)との相関分析を行う。今、 $K = (\text{その駅前で最も高いビルの高さ}) / (\text{その駅前で最も低いビルの高さ})$ の式から、各駅のK値を算出すると、新橋5.50、新宿3.25、東京a、b2.00である。

K値とバランスが悪い回答率から、直線式

$$Y = 11.3K - 0.86 \quad \text{が得られる。}$$

5. 駅前ビル全体のバランス、雰囲気ならびにイメージの評価

アンケート調査の分析、ビルの高さ、D/H値などから、次の指標が得られた。

(1) 駅前全体のバランス

良い … その駅前の最も高いビルの高さが、最も低いビルの高さの3倍未満である。

悪い … その駅前の最も高いビルの高さが、最も低いビルの高さの3倍以上である。

(2) 駅前ビル全体の雰囲気

良い … D/H値の差が小さく、看板・広告などの色の統一性がある(白、青、赤など)。

悪い … D/H値の差が大きく、看板・広告などの色の統一性がない。

(3) 駅前広場のイメージ

良いイメージの共通性は、緑が多いこと。新橋の機関車・噴水、新宿のアルタビルなど、シンボルの施設があること。

対象4地点のビル全体のバランス、雰囲気、広場のイメージについて評価すると表6のようになる。

6. まとめ

対象3駅のアナケート分析の結果、個々のビルについて、良いビルは主に形や色によって評価された。色については白や薄茶のような単色が良い印象を与えている。悪いビルは主に形や看板・広告によって評価された。新橋・新宿駅では看板・広告の色の統一性がなく、景観の評価を下げた。駅前ビルの看板・広告設置に対する厳しい規制が望まれる。